

教科担任制モデル校としての取組

仙台市立西中田小学校

1 教科担任制の導入にあたって

(1) 学力向上の面から

- ・児童は多くの先生方と学習する機会を持つことにより学習意欲が高まり、専門性のある教師が教科指導をすることによって、学習の楽しさを感じるようになる。教科ごとに教師が替わることで、児童は適度の緊張感を持って授業に臨むようになる。児童の意欲と緊張感を生かして、学力向上を目指す。
- ・一人の教師が複数学級で行うことで指導方法の工夫、改善ができ、授業の質がより高まり向上する。そのことにより、学力向上が図れると考える。

(2) 生徒指導の面から

- ・学年の児童を多くの教師の目で見ることにより、児童に対する共通理解を深めることができ、素早く情報交換ができると考えられる。また、それぞれの児童を様々な視点で見ることになり、対応の幅が広がることが期待できる。
- ・担任だけでなく、学年の担当者全員が生徒指導にかかわりやすくなり、担当者全員で学年の児童を育てていくという意識が強くなると考えられる。

(3) 中学校への円滑な橋渡しの面から

- ・中一ギャップの解消に向けて、担任とのかかわりだけでなく、多くの先生方とのかかわりを持たせることにより中学校での教科担任制に適應できるようにする。

2 実施上の留意点

(1) 教師の専門性や得意分野を生かした校内指導体制づくり

- ・担任を持っていない主幹教諭，研究主任，教科担任制講師を活用することにより適切な担当者になるようにする。
- ・5年生は初めての教科担任制であり，段階的に導入していく必要があると考え，国語と算数は学級担任が持つことにした。6年生は教科の中で時数が一番多い国語を担当が持つことで，学級の児童といる時間を確保した。

(2) 時間割作成の工夫・配慮

- ・持ち時数については，主幹教諭，研究主任，教科担任制講師を活用し，大きなばらつきが出ないようにする。
- ・毎日1時間ぐらいの空き時間ができるように時間割を工夫し，教材研究や授業準備，T・T指導，生徒指導，不登校対策に当てていく。
- ・教科ごとの総時数を踏まえ，6年は1学期と2学期で時間割を変更し，5年はA週とB週の時間割を設定し進めていく。
- ・特別教室の使用が5年と6年で重なることがないよう，各教科の年間指導計画の配列を調整した。

(3) 学習の進捗や授業時数の調整・管理

- ・学年では週に1度の時数調整を行い，細かな時数管理に取り組んでいく。
- ・休み時間や放課後に情報交換を密に行うことで，学習の進捗を調整していく。

3 教科担任制のよさを生かした実践例

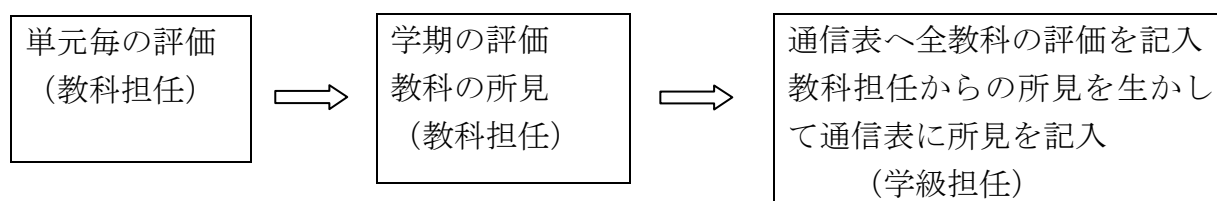
(1) 各教科の特性を生かした指導例

	学習指導における工夫や留意していること	主な成果 (○) や課題 (●)
6年 算数	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスの進度もずれないように、担当同士の話し合う機会を数多く設けるようにしてきた。 ・個別指導を充実するために、授業を持っていない教員が入るときがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究に多くの時間が取れるので、指導の工夫がいろいろでき、児童の実態に合わせた授業ができた。 ●朝の活動との関連がしづらく、定着の時間が取りづらかった。
5・6年 社会	<ul style="list-style-type: none"> ・どのクラスも同じ進度、内容になるように配慮してきた。 ・導入時に地図を用いた問題を出すようにしてきた。(5年) ・次時に向けて関心を持って取り組めるよう課題を出して調べさせてきた。(6年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級とも同じ内容で学習することができた。 ○多くの児童が興味を持って学習に取り組んでいた。 ●地図などを掲示するときは、担任との相談が必要であった。 ●時数を調整することが大変だった。
5・6年 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を多く体験させ、結果をまとめる時間をきちんと確保してきた。 ・実験することが難しいものについては、デジタル教材などの視聴覚教材を用いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に意欲的に取り組み児童が増えてきた。 ○2人で担当しているので、より良い指導法を模索することができた。 ●欠席児童に対する指導が時間的に難しかった。
5・6年 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を拡大コピーするなど掲示物を工夫し説明を分かりやすくしてきた。 ・楽しみながら歌う雰囲気作りに努めてきた。 ・器楽の演奏の練習のときは、ペア学習を取り入れ、学び合う機会を設けてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よく声を出してのびのびと歌う児童が多い。 ○器楽の演奏に喜んで取り組む児童が多く、演奏力が向上してきた。 ●個別指導の時間がなかなかとれなかった。
5・6年 図工	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や発達段階を考えながら年間指導計画を立て直した。 ・見本を作ったり見せたりしながら、アドバイスを工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究をしっかりと行ったので、児童の関心を継続することができた。 ○同じ教科を担当している教員同士で話し合い、教材の準備を十分に行った。 ●作業が遅い児童への指導の時間がとれずに苦労した。
5・6年 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ教科担当者同士で教材研究をして、資料や準備物の用意をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ内容を複数のクラスで指導するので、指導方法を改善できた。 ○実技では、地域支援本部からのボラン

	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの使い方の学習のときは、学校ボランティアの協力を頂いた。 ・実技のときは、時間割を組み直して担任がT・Tで入れるようにした。 	<p>ティアの協力をいただいたので、一人一人にきめ細やかな指導をすることができた。</p> <p>●実技の時間割編成のために他の教科も含めた調整が必要だった。</p>
5・6年 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・複数で担当しているので、学級によって学習内容に差が出ないようにするため、話し合う機会を多く持つようにしてきた。 ・グループの中で教え合ったり学び合ったりする機会を多く持つようにしてきた。 	<p>○意欲的に取り組む児童が増え、お互いに高めていこうとする場面が多く見られるようになってきた。</p> <p>●行事等で割り当てがなくなり、進度が合わなくなることがあった。</p>

(3) 評価や通信表についての取組

- ・規準に照らして教科担任が各単元毎に評価を積み重ね、学期末に評価をつける。学級ごとの評定記録表に各教科担任が評価を記入する。また、各教科での児童の様子を学級担任に伝えるために、教科担任が指導している学級の全員分のコメントも所見記入用紙に記入するようにした。



4 実践のまとめ

(1) 成果

①学力向上の面から

○児童の変容

- ・仙台市標準学力検査の結果を見ると、教科担任制を行った方が学力が向上している。特に、平成20年度は理科や社会科、平成21年度は算数や社会科の学力が向上しているのが分かった。
- ・児童は多くの先生方と学習する機会を持つことにより学習意欲が高まり、専門性のある教師が教科指導をしたことによって、学習の楽しさを以前より感じるようになってきた。
- ・教科ごとに教師が替わることで、児童は適度の緊張感を持って授業に臨むようになってきた。
- ・6年生は、空き時間に算数や体育の個別指導やT・T指導に入るようにしたので学力や技能が向上した。

○教師の変容

- ・学級の実態や児童の理解度を考慮しながら、授業改善を図ることができた。

- ・一つの学級で行った授業を生かし、改善することにより質の高い「分かる授業」を常に作り上げていくことができるようになってきた。
- ・一つの教科を複数の教師が持つことで、準備を協力して行うことができたり、教材研究が深まったりした。
- ・学習の進捗の確認やアイデアの交換などをし、学力向上へのこだわりができた。
- ・児童に対して1学期末にアンケートによる授業評価を取り入れた結果、授業改善が図られた。

②生徒指導の面から

- ・他の学級の児童について情報を交換し、多方面からかかわることができた。日頃から目配りや気配りが必要な児童はもちろん、様子に変化のあった児童についても素早く情報交換ができた。それぞれの児童を様々な視点で見ることになり、対応の幅が広がった。
- ・担任だけでなく、学年の担当者全員が生徒指導にかかわりやすくなった。担当者全員で学年の児童を育てるという意識が強くなった。
- ・今年度から5年生は算数も担任が持つようになった。そのことで、学級づくりがしやすくなった。

③中学校への円滑な橋渡しの面から

- ・多くの先生方とのかかわりを持たせることにより中学校での教科担任制に対応しやすくなった。
- ・以前に行った中学生へのアンケート結果によれば、中学校生活にすぐになじめたのは小学校で教科担任制を行っているモデル校出身の生徒が多いということが分かった。

(2) 今後の課題

①学力向上の面から

- ・質問したいことがあっても、担当者が次々と変わるので質問しにくいと子どもの感想にあった。担当者は、授業後も時間の許す限り教室に残るようにして、子どもが質問しやすい環境を作っていきたい。
- ・教科の枠を超えて行う横断的な学習に指導の難しさを感じた。来年度は、担当者同士の打ち合わせを今まで以上に密にし、横断的な学習にも対応できるようにしていきたい。

②生徒指導の面から

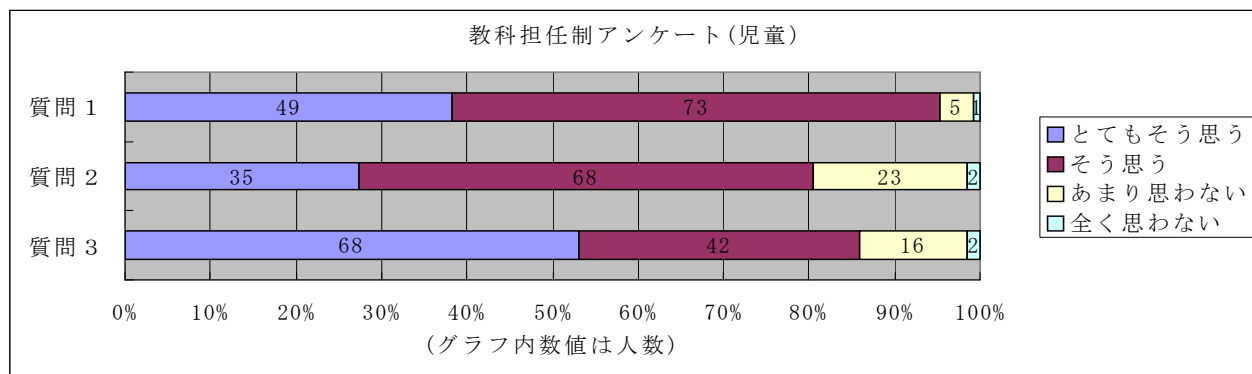
- ・学級で時間をかけて生徒指導したいときに時間が取れなかった。時間をかけて生徒指導したいときには、時間割を変更するなど柔軟な対応ができるようしていきたい。

③中学校への円滑な橋渡しの面から

- ・小学校と中学校の交流ができなかった。お互いに授業参観を行って研修を深めたり、小学生と中学生が交流したりする機会を設けていきたい。

1 児童対象のアンケート調査から
(5年4クラス, 6年4クラスから各学年2クラスを任意抽出 128名回答)

- 質問1 授業はわかりやすいですか。
 質問2 以前より勉強をがんばっていますか。
 質問3 いろいろな先生と話ができてよいですか。



質問1の回答から95%の児童が教科担任制による授業はわかりやすいと答えている。教科担任は自分の専門性を生かして教材研究, 教具作成を行い, さらに同じ内容の授業を続けて行うことで前時の反省を生かしながら次の授業に臨んでいる。このことから児童にとって分かりやすい授業が行えた成果が現れたと考える。

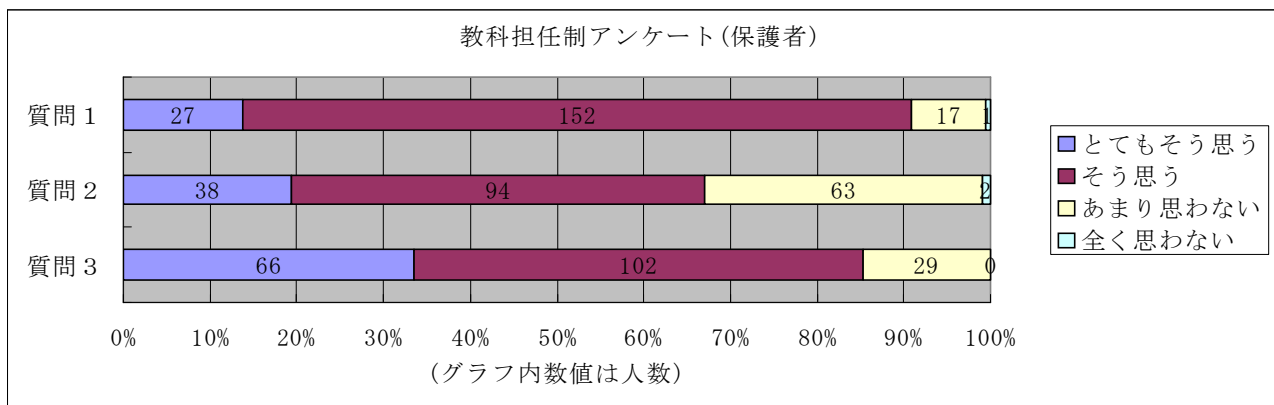
質問2の回答では80%の児童が以前より勉強をがんばるようになった。指導者が替わるので適度な緊張感あり, 意欲が高まるのではないかと考えられる。保護者からは, 「全教科同じ先生でだらだらするよりもよい」との指摘もいただいている。6年生70%に対して5年生は91%ががんばるようになったと答えており, 教科担任制が取り入れられた直後の方が割合が高い。6年生になると教科担任制にも慣れ, 緊張感が薄れることが懸念される。

質問3の回答では, 86%の児童がいろいろな先生と話ができることがよいと答えている。教師もより多くの目で児童を見ることにより生徒指導の課題に多面的な目で早急に取り組むことができると考えている。反面, 児童と保護者には, 担任との会話が少なくなることを心配する記述回答もあった。

2 保護者対象のアンケート調査から
(5・6年全保護者に質問 197名回答)

- 質問1 お子さんは, 授業をわかりやすいと思っていますか。
 質問2 お子さんは, 以前より勉強をがんばっていますか。
 質問3 お子さんは, いろいろな先生と話ができて良いようですか。

(グラフ内数値は人数)



保護者へのアンケートでは、児童へのアンケート同様、授業を分かりやすいと思っていること、いろいろな先生と話ができることのメリットをとらえている回答が多かった。しかし、以前より勉強をがんばっていると答えた保護者は7割弱であり、他の項目よりは教科担任制の効果が少なくなっている。学校での学習の他に家庭学習でも勉強を努力するようにしていくことが課題として浮き上がった。今後、教科担任制における宿題の在り方についても検討していく必要がある。

3 学校評価委員会から

学校評価委員会では、学校経営全般について話し合いが行われた。その中で教科担任制については以下のご意見をいただいた。おおむね小学校高学年での教科担任制は効果的であると評価していただき、指導者が替わることについてのマイナス面はあげられなかった。

- ・教科担任制での子供の様子を見てみると、担任以外の先生から声をかけられることがよくあり、効果的であると感じた。
- ・暦年齢に対しての教科担任制がしっかり機能している。
- ・教科担任制は、中学校での教育活動の基礎となっているようである。
- ・いわゆる中1プロブレムの解消にも効果があると考えられる。
- ・中学校への準備としては、大変効果的な取り組みだと思う。

4 職員による内部評価から

・学級担任として「自分の学級の子供」という意識だけではなく、複数の教師で学級、学年を指導していくという意識になっている。

・児童による授業評価を実施し、その授業評価を指導の改善点としてとらえ、よりよい授業づくりに結び付けることができる。

・学級担任とは別に3～4名の教科担任が児童を指導することにより、生徒指導上の課題を早期に発見し、対応について話し合い、解決していくことができる。